ISSN 1881-5251

彩の国 埼玉県

埼玉県立自然の博物館 ニュースレター

毒々しいけど毒はない！生きものたち（左上：ハグロハバチ、中上：ムラサキナギナタタテ、右上：ルリタテハ、左下：キヌガサタケ、中下：ナシアシブトハバチ、右下：タマゴタケ）

平成３０年度企画展
「要注意！野外の危険なもの」 P２～３

小さな生きものの展示コーナー新設！
～埼玉の生きもの５００点以上を間近で観察～ P４～５

埼玉県立自然の博物館展示解説書
埼玉の自然誌～埼玉の自然を知る・学ぶ～ P６～７

音声ガイド更新について
催し物のお知らせ（５月～１０月） P８

瀞（とろ）

32号

2019年 3月発行

編集・発行
埼玉県立自然の博物館
Saitama Museum of Natural History

〒369-1305 埼玉県秩父郡長瀞町長瀞 1417-1 TEL 0494-66-0404（総務担当） 0407（学芸担当）
FAX 0494-69-1002 URL http://www.shizen.spec.ed.jp E-mail t660404@pref.saitama.lg.jp

森田　知貴

私たちが普段生活している場所には、獰猛な野生動物や、鋭い棘を持つ植物、土石流などの自然災害など、注意しておきたいものはたくさんあります。しかし、危険とされる生きものの多くは、自分の身を守り、エサを捕まえるために、毒や棘をもっているだけで、私たちを困らせようとしているのではありません。私たちが不用意な接近や接触をしない限り、実際に危害を加えられることはありません。また、時折起こる自然災害も、その原因となるメカニズムを知ることで事故にあう危険や被害を小さくすることができます。

本企画展では、動物、植物、地質の各分野から野外の危険なものについて紹介し、誤解に基づく情報や、上手な接し方を学べるような展示を行っています。更に、学芸員が味わった危険な体験等、興味深く面白い話も紹介しており、より実践的な対応策などを知ることができます。

展示風景

第１章 こんな場所にこんな危険！

第１章では「こんな場所にこんな危険」というテーマで、それぞれの場所にある危険なものについて、特徴や対処方法を紹介しています。

（1）家、庭、公園

私たちの日常生活（家、庭、公園）に潜む危険な生きものについて、紹介しています。

ハチの巣に近づいてしまったときは、いくつかの警戒段階があります。あごを動かしてカチカチと音を発したときは最終通告となります。騒がず、速やかに巣から離れるようにすることが大切です。

オオスズメバチ

（2）草むら、河原

草むらや河原で生活している危険な生きものや、キャンプや川遊びに行ったときなどに出会う危険について紹介しています。

ヘビは危険と思う人が多いと思いますが、本州で毒を持っているヘビは、マムシとヤマカガシしかいません。それ以外の種類は、牙はありますが、毒を持っていません。ヤマカガシの毒は 2 種類あり、首の背面の皮ふの下にある毒は、食べたヒキガエルの毒を自分の毒に再利用したものです。

ニホンマムシ

（3）雑木林、山

雑木林や山で生活している危険な生きものや、ハイキングや登山に行ったときなどに出会う危険について紹介しています。

山を歩く時に注意をしなくてはいけないのが、ヤマウルシです。背丈がちょうど足を滑らせたときに手でつかむ高さなので、つい触ってしまい、かぶれてしまいます。柄が赤い複葉の植物には、触らないほうが賢明です。

ヤマウルシ

第２章 見間違え注意！

第２章では、見間違えがよく発生する危険なものについて紹介しています。

やわらかい山菜が採れる春は、まだ植物が芽吹いたばかりで見分けが難しい季節です。同じような場所に山菜によく似た有毒植物が生えていることもあり、注意が必要です。

秋は、きのこ狩りの季節です。きのこ狩りを行うにあたっては、詳しい人に教わるなどして勉強を重ね、自分で見分けられるようになること、本当に自信のある確実なものしか食べないこと、また、むやみに人にあげたりせず、自己責任で楽しむことなどが大切です。

左：クサウラベニタケ
右：ウラベニホテイシメジ

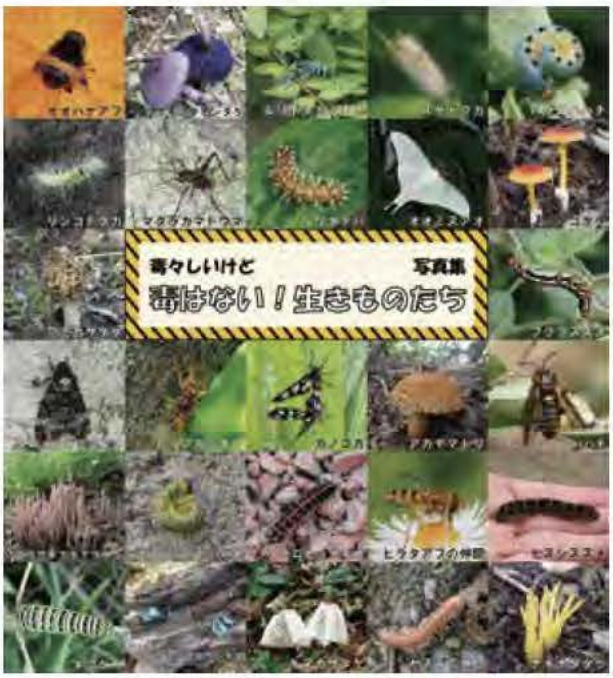
第３章 それは冤罪！

第３章では、見た目やイメージなどから危険なものと勘違いされている生きものや、接し方を間違えなければ、安全な生きものについて紹介しています。

ツキノワグマのフンを観察すると、木の実等が見られます。冬の間は、シカなどの死体を見つけて食べることはありますが、他の季節は、昆虫・植物の葉・サクラ類・コナラ・ブナ・ヤマブドウ・アケビ等、植物食が中心であることが分かっています。同様に、コウモリ類のフンを観察すると、昆虫のハネなどが見られます。吸血鬼につながるイメージのためか「血を吸う生きもの」と思われがちですが、国内に生息するコウモリは果実や昆虫を食べています。日本以外でも吸血性のコウモリは、中南米に生息するチスイコウモリ類だけです。

ゲジやヤスデは、その外見からムカデ類と同じ強力な毒をもつ危険な生きもののイメージが強いのですが、毒性はほとんどなく、人に被害を及ぼすことはありません。落ち葉や朽ち木、菌類を食べる分解者の役割をもちます。

ハチも国内に生息する種類は約 4,500 種ですが、毒針を持つハチは 1,200 種程度と半分以下です。その中でも攻撃的なのは、スズメバチ、アシナガバチ、ミツバチの仲間だけです。



毒々しいけど毒はない！生きものたち

第４章 学芸員の体験談！

第４章では、学芸員が味わった危険な体験談について紹介しています。

危険に遭遇した動物・植物・地質の学芸員が、経験者ならではの体験談をご紹介。より実践的な対応などを知ることができます。また、調査等は、常に危険と隣り合わせであるということも知ることができます。今だから言える、興味深い話です。

危険なものに対しての注意するポイント、見分け方などを理解できるとともに、見た目や先入観、イメージばかりで悪者扱いしたり、過剰に怖がる必要はないということが分かる、興味深く楽しめる展示となっています。ぜひご来館ください。

（もりた　ともよし・担当課長）

小さな生きものの展示コーナー新設！
～埼玉の生きもの５００点以上を間近で観察～

半田　宏伸

平成３１年１月に館内の一部改修を行い、新たに「埼玉の多様な生きものコーナー」を新設しました。

本コーナーでは、コーナー名の通り「埼玉の多様な生きもの」をテーマに、当館の生物展示ホールの大ジオラマでは展示の難しかった、昆虫などの小さな生きものを展示、解説しています。

従来壁面だった場所に展示具を設けて、壁に沿って標本箱を設置できるようにし、標本箱の中の小さな展示物の色や形を間近に観察できるのが特徴です。

埼玉の多様な生きものコーナーの全景

見どころ1「500点以上の豊富な展示標本」

18 個の標本箱には植物分野、動物分野の資料が合計 500 点以上展示されています。箱ごとにテーマを設けて、箱の中で標本同士を見比べることで、そのグループの特徴や種ごとの違いなどを理解しやすくなっています。

植物分野では、松ぼっくりやドングリ、春植物、コケやきのこ、地衣類といった幅広い資料を展示しました。例えば、松ぼっくりを紹介する箱では、県内にみられるアカマツやモミなどマツ科の球果を 12 種類展示し、一言に「松ぼっくり」といっても、種類ごとに多様な形状があることを紹介しています。さらに、ムササビなどが球果の種を食べたときに残る食痕（通称エビフライ）も展示し、松ぼっくりと他の生きものとのつながりについても解説しています。ドングリを紹介する箱でも同じように様々なドングリの特徴を見ることができます。その他の箱でも、テーマごとに特徴的な植物を紹介し、植物の形や生態の多様さが理解できるようになっています。

松ぼっくりの展示

動物分野では、昆虫標本を展示しています。コウチュウ目やチョウ目など県内にみられる 20 以上の分類群を標本箱ごとに展示しています。昆虫図鑑などでよく見かける有名どころから、あまり見けることのないマニアックな種まで、多様に展示しました。

例えば、ハチ目の標本を展示した箱では、スズメバチの仲間やカリバチ、ハナバチの仲間だけでなく、原始的なハチであるハバチやキバチの仲間、形態が特徴的な寄生蜂のウマノオバチ、以前少し話題になった美麗種ミヤマツヤセイボウなど、多様なハチ類を展示しています。この他の分類群では、同じ種で色の違うバッタやカマキリの仲間、嫌われがちなハエの仲間、外来昆虫など、特徴的な昆虫を数多く展示しています。

そして、それぞれの標本は昆虫図鑑に載っているようなポーズに整えられているので、標本同士を見比べて観察しやすく、見ているだけでも、昆虫がいかに多様な生きものであるかを感じ取ることができます。

多様な昆虫標本

見どころ2「より詳しく知るための解説パネル」

展示内容をより詳しく知りたい方には、それぞれの標本箱に対応した解説パネルを設置しています。

パネルには、植物の分類や各分類群の特徴、混同されやすい植物と菌類の違いや、植物の生存戦略、昆虫の分類やグループ同士の類縁関係、グループによって異なる成長様式、グループごとの形態や生態の特徴などを詳細に解説しています。

解説を読みつつ実物を観察することで、埼玉の生きものの多様性の理解をより深めることができます。

詳細な解説パネル

見どころ3「飛翔型の鳥類剥製」

本コーナーでは壁面以外に天井メッシュから、鳥類の剥製を吊るして展示しています。これらは飛翔型と呼ばれる剥製で、翼を広げ飛んでいるときの姿を再現したものです。普段は見ることが難しい生きているときの様子がうかがえる迫力のある剥製です。これまで常設展示では紹介していなかったヤマセミやオオタカなど、9 点の剥製を新たに展示しました。

これらの剥製は触ることができませんが、既存の展示「触れる剥製コーナー」と一緒に動物を間近でご覧いただけます。

ヤマセミ(左)と オオタカ幼鳥(右)

おわりに

埼玉県は、動物・植物が 15,000 種以上知られている生物相が豊かな地域です。本コーナーでは500点以上の資料から埼玉県の多様な動植物の一端をご覧いただけます。

本展示を通じて生きものの多様性を感じ、埼玉の自然について知るきっかけとなっていただければ幸いです。

今回ご紹介したのは常設展示のため、当館にお越しいただければいつでもご覧いただくことができます。ぜひ一度、ご来館ください。

（はんだ　ひろのぶ・学芸員）

ご来館、
お待ちしております。

埼玉県立自然の博物館展示解説書
埼玉の自然誌 ～埼玉の自然を知る・学ぶ～

井上　素子

この度、当館は新たに展示解説書を作成いたしました。平成 27 年度に当館所蔵の化石標本が国指定天然記念物「古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群」に指定されたことなどから、数年をかけて、常設展示室の改修を行ってきました。今年の 1 月に「埼玉の多様な生きものコーナー」が完成し、改修が一区切りしたため、新たな展示に合わせて解説書の改定を行った次第です。

4 代目のコンセプトは「埼玉の自然誌」

今回発行する展示解説書は、昭和 56 年の開館当初に発行した初代解説書から数えて 4 冊目に当たります。初代解説書は、展示制作に係わった方々の思い入れが伝わる充実した内容ですが、残念ながらカラーページや写真が多くありません。開館 10 周年を機に平成 3 年に刊行した 2 代目の展示解説書は、これを補う形でカラー写真を充実させ、主要な展示物を詳しく解説しています。3 代目の解説書は、平成 18 年に当館の館名を「埼玉県立自然史博物館」から「埼玉県立自然の博物館」へと変更したことに伴い、平成 23 年に刊行しました。周囲の豊かな自然と一体化した当館の立地を生かして、展示とともに自然を観察してほしいと、紙面の半分を長瀞の自然の紹介に充てました。

さて、今回の常設展示図録は、展示物の紹介というよりは、埼玉の自然誌を紹介することに、主眼をおきました。「自然誌（自然史）」とは Natural History の和訳です。当館の英名は Saitama Museum of Natural History です。Natural History は自然を科学的に記述する学問を指し、地質学、地理学、分類学、生態学など、主にフィールドワークを通じて自然を観察・記述してきた分野がこれに含まれます。解説書の主題を「埼玉の自然誌」としたのは、皆様が本書を通じて埼玉県の自然の特徴をより深く知り、興味を深め、フィールドワークへの入り口として頂きたいと考えたからです。

博物館の展示の魅力は、実物と対面し、五感を使って観察できることにあります。このことは、図鑑やウェブサイトでは決して代用できません。一方で、より深く自然を学びたい利用者からは、埼玉県ならではの地史や生物相の特徴を分かりやすく紹介した本が待望されてきました。本書で

歴代の展示解説書

埼玉県立自然史博物館
展示ガイド
B5 判　58P.

埼玉県立自然史博物館
総合案内
B5 判　71P.

埼玉県立自然の博物館展示案内
地球の窓・長瀞の自然
B5 判　56P.
※友の会ショップ（不定休）で
現在も販売中です。

埼玉県立自然の博物館展示解説書
埼玉の自然誌
～埼玉の自然を知る・学ぶ～
A4 判　100P.

埼玉の自然の大枠を学び、展示室で実物を見て理解を深め、自然観察に出かけ、そこで発見した自然物や情報を博物館へフィードバックする…このような好循環が生まれることを期待して本書を作成しています。

埼玉県とはいかなる場所かを浮き彫りに

埼玉県には海や湖がなく、高山や火山もありません。埼玉県の自然は何の特徴もないと多くの人が思っているのではないでしょうか？日本列島の自然における埼玉県の位置づけを知れば、見慣れた風景も違って見えてくるはずです。

埼玉県の西半分は関東山地、東半分は関東平野です。関東山地には日本列島の土台を構成する主要な岩石が狭い範囲に凝縮しています。そのため明治時代の地質学黎明期から多くの地質学者が当地を訪れ、日本列島の基本構造を明らかにしていきました。一方、日本一の広さを誇る関東平野では、山地を構成する土台の岩石が数千mも地下に埋没し、その上を新しい時代の堆積物が埋めています。このような構造はいつどのようにしてできたのでしょうか。本書では、3 億年におよぶ埼玉の地史を 4 つの時代に分け、各時代に日本はどのような状態で、その時埼玉はどんな場所だったのかを、図やイラストを多用して紹介しています。

埼玉県には、これまで 15,000 種以上の生物が記録されています。かつて南北で大陸と繋がっていた地史を持つ日本列島。その中央に位置する埼玉県では、北方系・南方系両方の要素を含む生物相が育まれています。本書では、埼玉県の生態系を復元した大ジオラマの展示に即して、各々の生物相を豊富な写真とともに紹介しています。本書を手にしながら大ジオラマの中の動植物を探してみてください。展示では紹介しきれていない話題は、数多くのコラムとして紹介しています。

とはいえ簡単なことではありません

個々の展示物を紹介することはそれほど難しいことではありません。しかし、地史や生物相を紹介しようとすると、突然ハードルが上がります。自然は非常に複雑で、明治以降の数えきれない研究成果を結集しても、今だに定説が確立していない事象が多いからです。公の博物館として一説を採用できない事情が本書のようなコンセプトの本の刊行を妨げてきました。埼玉の自然誌をわかりやすく伝えるために、学芸職員が批判を恐れず執筆していることをどうぞ御理解いただき、本書を御覧になっていただければ幸いです。

（いのうえ　もとこ・主任学芸員）

音声ガイド更新 ～多くの方に楽しんでいただくことを目指して～

平成31年2月に、約20年使用してきた音声ガイドを更新しました。

新しい音声ガイドを導入するにあたり、重視したのが「使いやすさ」です。博物館の音声ガイドは、スマホで聞くものや、番号を入力するものなど色々ありますが、当館では学習用品などで使用される、音声再生機能があるペン型の機器を導入しました。単純な構造で誰でも簡単に操作ができるため、小さいお子さんも使い方をすぐ理解し、楽しく使用されています。

また、使用される方に「親しみやすさ」を感じていただきたく、ガイドの録音を埼玉県立浦和第一女子高等学校アナウンス部の皆様にお願いしました。「ここは子供向けなので、もっと明るい感じで…」など、こちらの細かい注文にもお応えいただき、ありがとうございました。とても聞きやすく、次の内容も聞いてみたいと思える素敵なガイドになっています。

新しい音声ガイドは、来館者の方に無料でお貸ししています。ぜひご使用いただき、当館をより楽しんでいただけたら嬉しい限りです。

（相馬一行）

新しい音声ガイド：マークをふれるとガイドが流れる

催し物のお知らせ（5月～10月）

	タイトル	期間	内容
特別展示	知って埼玉！化石でたどる2,000万年	7月6日(土)～2020年1月13日(月・祝)	多くの実物化石をもとに2,000万年前から縄文時代まで、埼玉県の大地と生物相の成り立ちを紐解きます。
企画展示	要注意！野外の危険なもの	2月2日(土)～6月23日(日)	野外に潜む危険なものを、動物・植物・地質の各分野から実物標本や写真、学芸員の体験談で紹介。
パネル展示	埼玉にも砂丘があるの？	1月29日(火)～6月30日(日)	埼玉に日本最大級の面積を誇る内陸砂丘があることを紹介。
	みんな知ってる？埼玉の外来動物	7月1日(月)～10月27日(日)	県内で見つかっている外来動物の写真や解説パネルを展示。

※開館時間　9:00～16:30(7,8月は～17:00)　休館日：月曜日※祝日、振替休日、7,8月は開館。9/2～9/9。

イベント

	タイトル	日時	場所	参加費	対象・定員など
観察会	山里の自然観察in武州日野	5月18日(土) 10:00～15:00	集合・解散：武州日野駅	300円	小学生以上 30名
	オオムラサキの森で自然観察	6月29日(土) 10:00～12:30	集合・解散： 嵐山史跡の博物館	300円	小学生以上 30名
	天覧山 秋の自然観察	9月28日(土) 10:00～15:00	天覧山(飯能市)	300円	小学生以上 30名
	秋の岩畳観察会	10月12日(土) 10:00～12:00	集合：長瀞駅 解散：当館	300円	小学生以上 30名
自然史講座	水生昆虫の採集と観察	6月15日(土) 10:30～15:30	集合・解散：当館	300円	小学生以上 30名
	昆虫標本をつくろう	7月26日(金) 10:00～12:00	当館 科学教室	500円	小学校3年生以上 30名
	30種類の鉱物図鑑づくり	8月2日(金) 13:00～16:00	当館 科学教室	1,500円	小学生以上 30名
	講演会「化石サイの世界」	8月24日(土) 13:30～15:30	当館 講堂	観覧料	小学校3年生以上 80名
	講演会「化石ゾウの世界」	9月21日(土) 13:30～15:30	当館 講堂	観覧料	小学校3年生以上 80名
	講演会「埼玉10万年の旅」	10月26日(土) 13:30～15:30	当館 講堂	観覧料	小学校3年生以上 80名
その他のイベント	夏休み自由研究相談室	7月30日(火)、31日(水) 10:00～16:00	当館 講堂	観覧料	小学生以上 高校生以下

※ 観察会、自然史講座は事前に申し込みが必要です。詳しくはお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。